

強度行動障害の理解

- ・困っていることの体験

社会福祉法人 皆楽園
山崎俊和

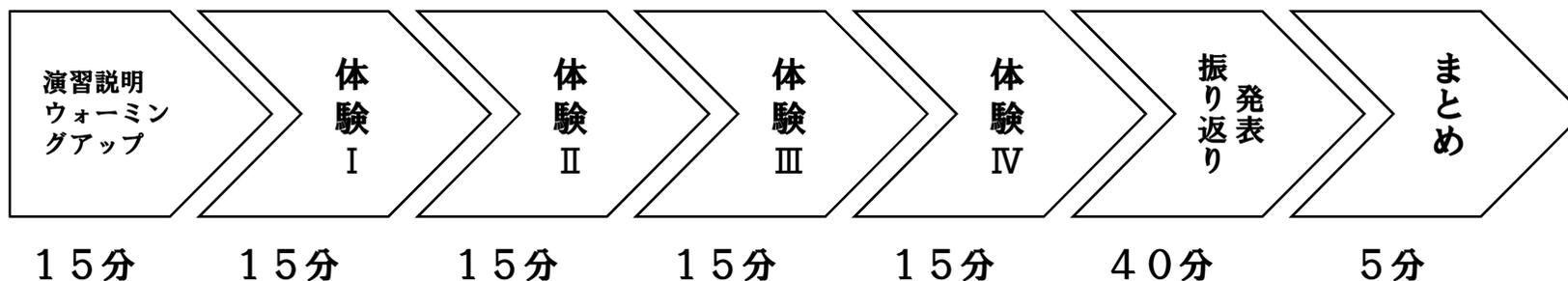
【この時間で学ぶこと】

- 強度行動障害は本人が強い困惑を感じ、その解決策が見出せないまま、なんとか抜け出そうともがいている状況と考えることもできます。
- その時間は、私たち支援者がどんな困惑を感じさせてしまっているのか、強度行動障害の状態にある方々の立場になって体験します。
- もちろん感じ方は人それぞれ違うと思いますが、自分たちの体験レベルよりもはるかに強い困惑を感じてこられた方々であるという思いを持ちながら研修を進めていければと思います。

演習（GW）について

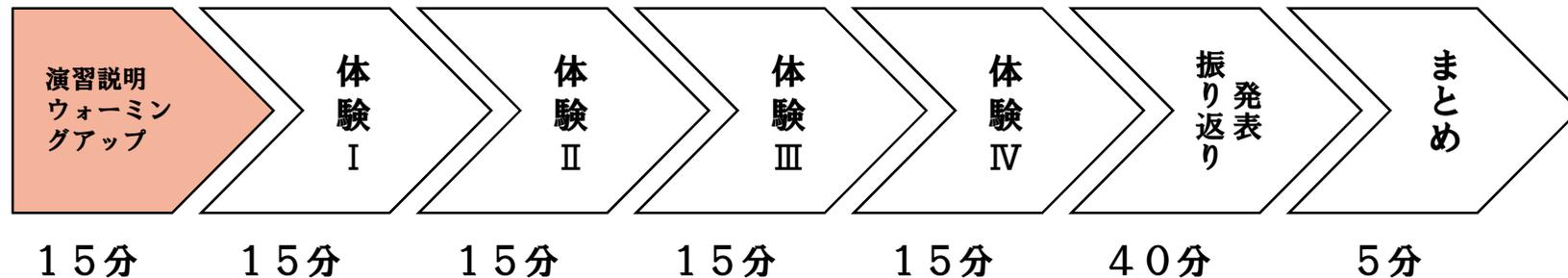
- **この時間では受講者の皆さんに体験をしていただきます。**
- **各グループに分かれて演習を行います。**
- **体験を共有するために、それぞれの体験ごとに皆さんが感じたことをお聞きします。**

演習の流れ



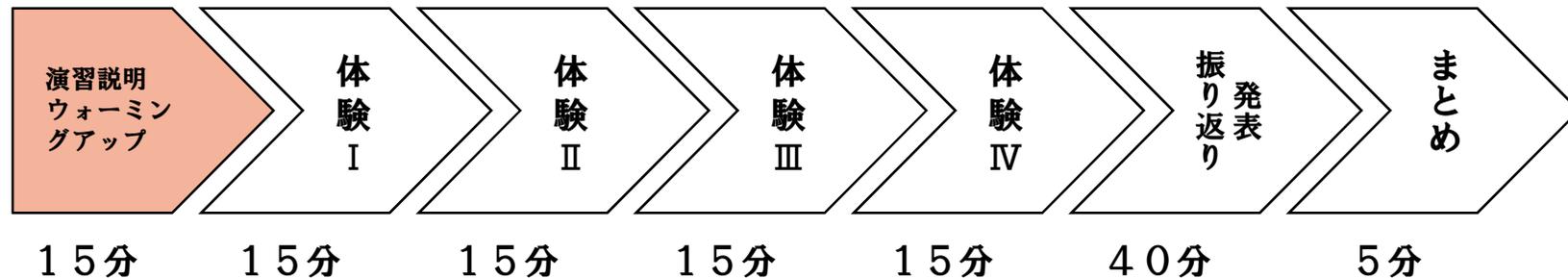
- 受講者同士の距離も縮まるようウォーミングアップとしてゲームをします。
- 体験メニューは4パートあります。
何を体験しようとしているのかを考えながら、積極的に参加しましょう。
- 途中で何を感じたか、数名に発表してもらおう場面もあります。
- 最後にそれぞれで振り返りを行い発表します。

ウォーミングアップ①



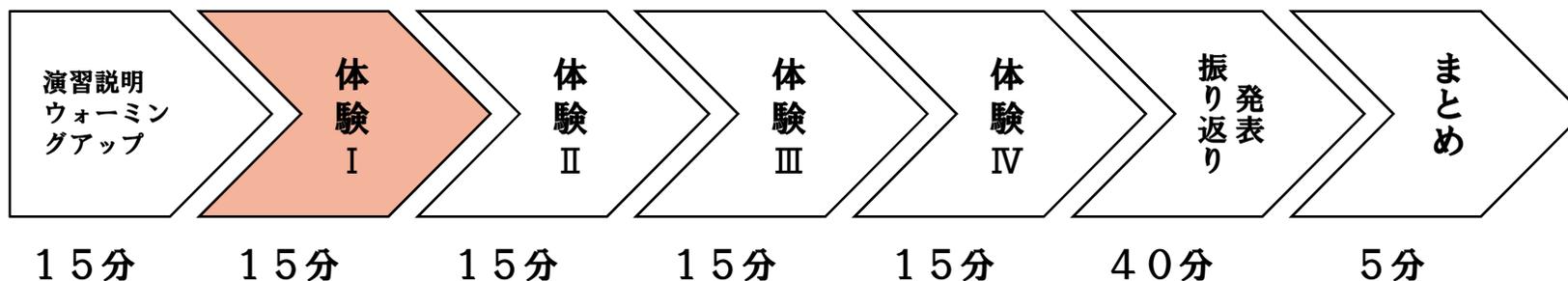
- 先ずはウォーミングアップとしていくつかのゲームをしましょう。
- 最初にするのは、ジャンケンゲームです。講師と皆さんが一斉にジャンケンをします。最後まで残るのは誰でしょうか。
- 全員立ち上がり、講師と一斉にジャンケンをして、勝った人とあいこ人は立ったまま、負けた人は座ってください。
- 最後に残った何名かの方に、自己紹介をしてもらいたいと思います。「お名前」「ご所属（事業所の所在地や県内のどの地域から参加されているのか）」「講師からのお題」を話していただきます。

ウォーミングアップ②



- **ウォーミングアップ②では、講師との共通ゲームを行います。ウォーミングアップなので気軽に参加してください。**
- **これから講師が自身のことを伝えます。それに当てはまる人は立ったまま、当てはまらない人は座ってください。**
- **今回も最後に残った何名かの方に、自己紹介をしてもらいたいと思います。「お名前」「ご所属（事業所の所在地や県内のどの地域から参加されているのか）」「講師からのお題」を話していただきます。**

体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ



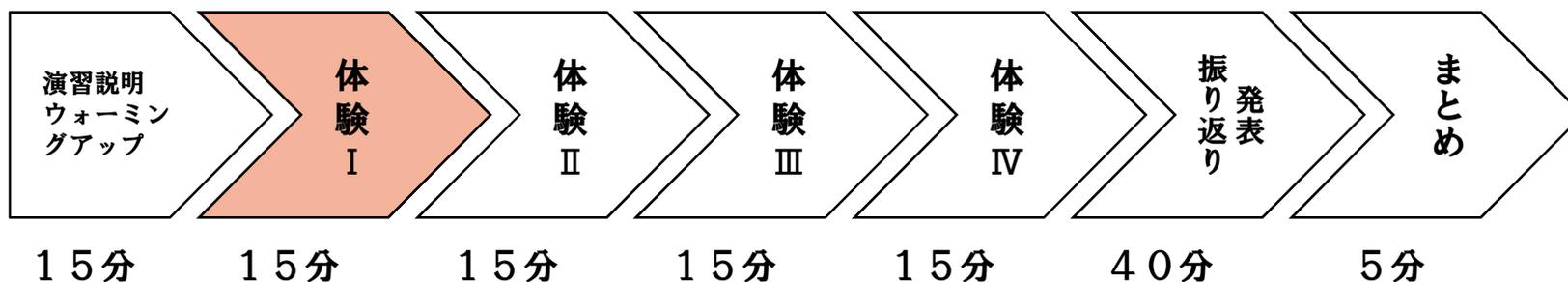
- **体験者は、講師からお題を顔の動き（表情）だけで他の受講者に伝えてください。**
- **他の受講者の方々は、体験者が何を伝えたいのかを書いてください。**

体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ

- 体験者の伝えたかったこと



体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ



- 体験者は、言葉を話す、唇を動かす、文字を書く、指文字は使えません。ジェスチャーのみで伝えてください。
- 他の受講者の方々は、体験者が何を伝えたいのかを書いてください。

体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ

- 体験者の伝えたかったこと

①

②

体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ

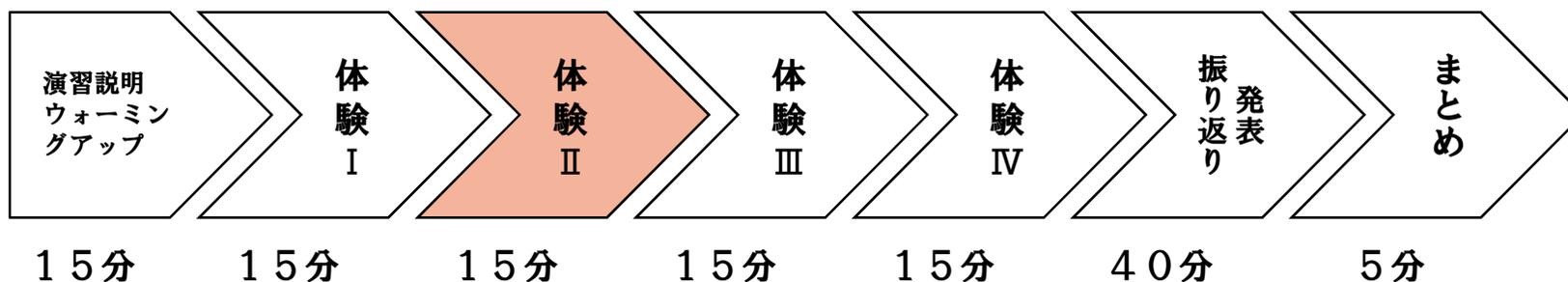
＜体験の共有＞

- この体験を通じて、強度行動障害の方々の困惑について皆さんは何を感じたでしょうか。
- 皆さんが自分なりに感じたことを体験者、その他受講者にもお聞きしてみましよう。

体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ

- ここで体験してほしいこと
《特性確認シートをご確認ください》
- 『コミュニケーションの特性』
【発信が難しい】
 - 話し言葉で伝えることが難しい
 - どのようなにつたえたらいいかわからない

体験Ⅱ 意味のわからない苦痛



- この体験Ⅱは、受講者の方にも協力してもらいます。
- 体験者の方から、受講者の皆さんに図形を伝えます。伝え方は「言葉のみ」です。
- 受講者の皆さんは、図形を書いてみてください。

体験Ⅱ 意味の分からない苦痛

①

②

体験Ⅱ 意味のわからない苦痛

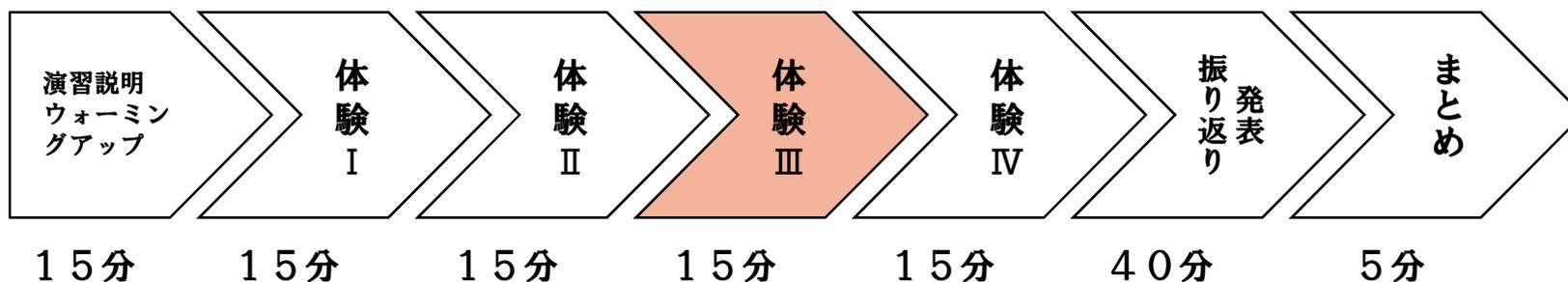
<体験の共有>

- この体験を通じて、強度行動障害の方々の困惑について皆さんは何を感じたでしょうか。
- 皆さんが自分なりに感じたことを体験者、その他受講者にもお聞きしてみましよう。

体験Ⅱ 意味のわからない苦痛

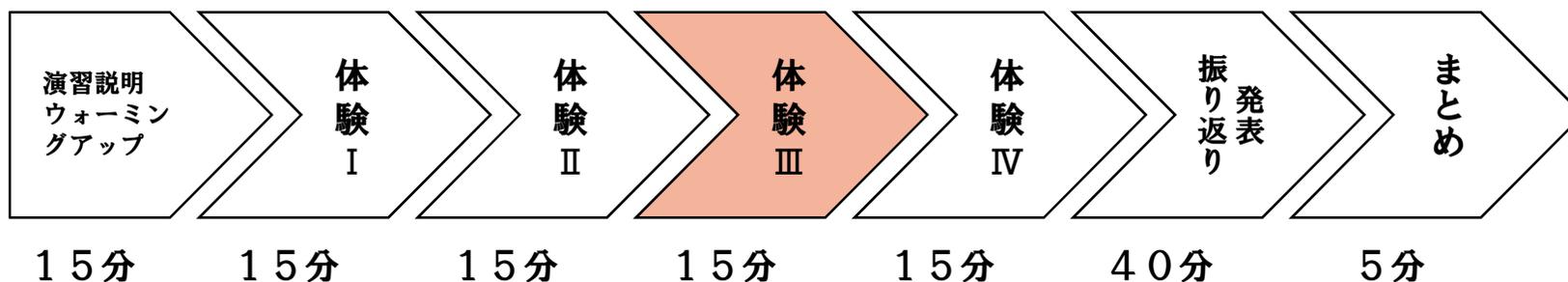
- ここで体験してほしいこと
《特性確認シートをご確認ください》
- 『コミュニケーションの特性』
【理解が難しい】
 - 話し言葉の理解が難しい
 - 抽象的で曖昧な表現の理解が難しい
- 『社会性の特性』
【状況の理解が難しい】
 - 見えないものの理解が難しい

体験Ⅲ 見通しの持てない不安や恐怖



- この体験2人1組で行います。
- これからお互いに見つめ合います。
- 講師からの合図でスタートします。

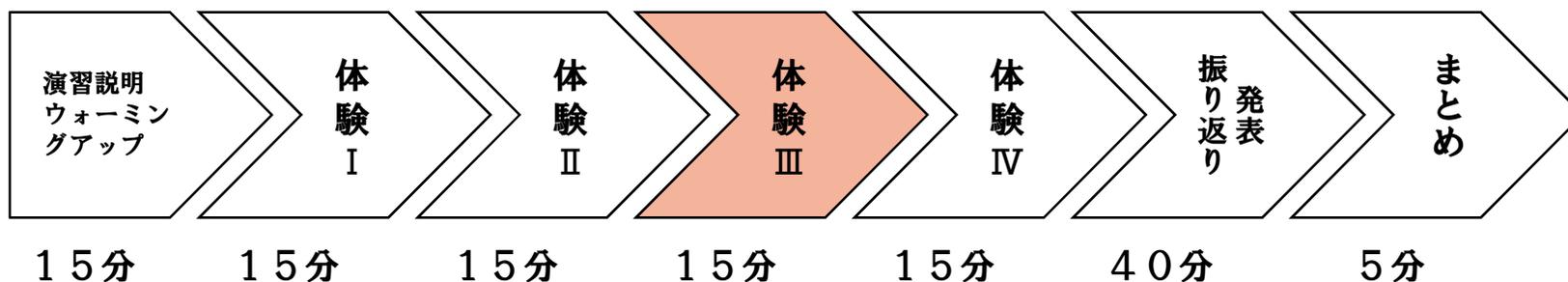
体験Ⅲ 見通しの持てない不安や恐怖



< 1回目 >

- 講師の合図で10秒間見つめ合います。
- 10秒間カウントします。
- 笑わないで頑張りましょう。

体験Ⅲ 見通しの持てない不安や恐怖



< 2回目 >

- 1回目と同じように講師の合図で開始します。
- 講師が終了を合図するまで続けてください。

体験Ⅲ 見通しの持てない不安や恐怖

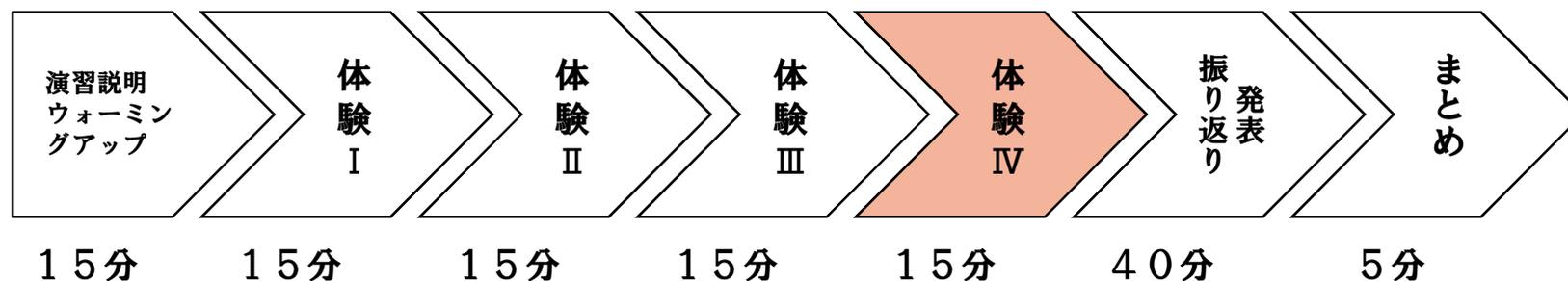
＜体験の共有＞

- この体験を通じて、強度行動障害の方々の困惑について皆さんは何を感じたでしょうか。
- 皆さんが自分なりに感じたことをお聞きしてみましよう。

体験Ⅲ 見通しの持てない不安や恐怖

- ここで体験してほしいこと
《特性確認シートをご確認ください》
- 『想像力の特性』
 - 【自分で予定を立てることが難しい】
 - 段取りを適切に組むことが難しい
 - 【変化への対応が難しい】
 - 先の予測をすることが難しい
 - 臨機応変に判断することが難しい

体験Ⅳ 感覚の特異性



- 各グループで1名体験者を選びます。
- グループの他の皆さんには、講師からお題を出しますので、それを思い浮かべてください。
- 講師の合図で一齐に思い浮かべたことを話してもらい体験者に聞き取ってもらいます。

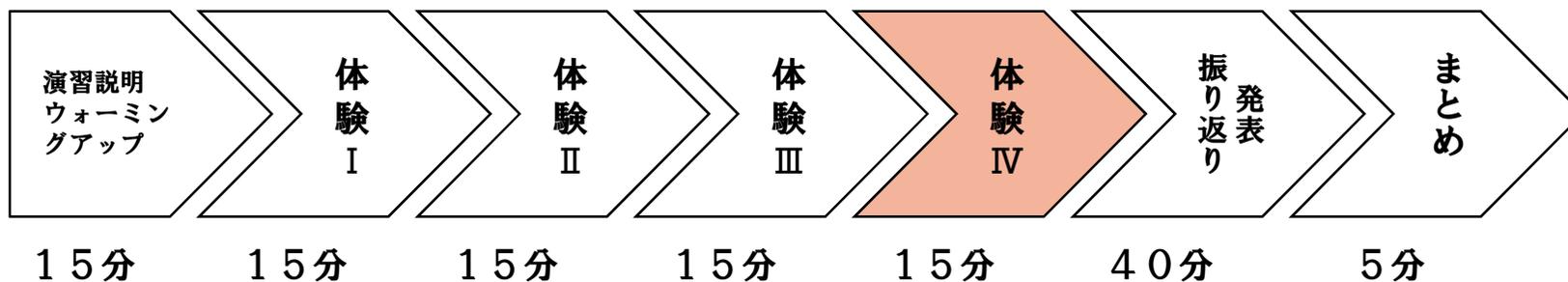
体験Ⅳ 感覚の特異性

①

②

③

体験Ⅳ 感覚の特異性



- 次は全員が体験者となります。
- これからある写真を皆さんに見ていただきます。
- それが何か考えてください。





体験Ⅳ 感覚の特異性

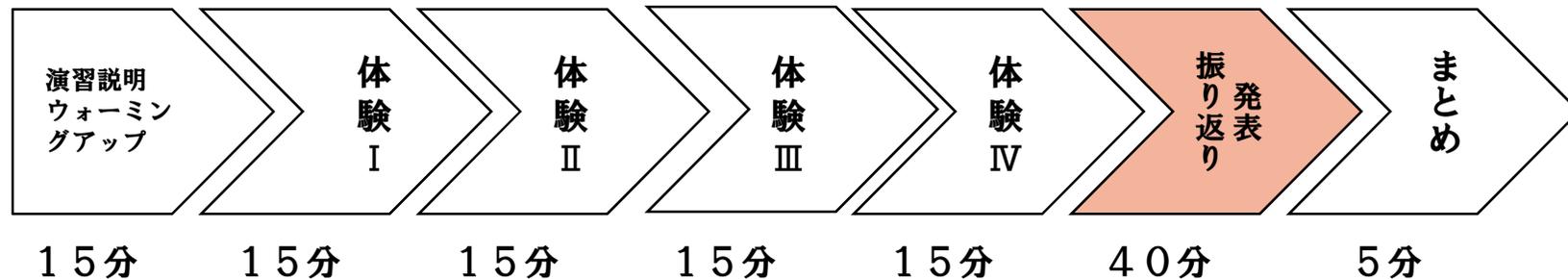
<体験の共有>

- この体験を通じて、強度行動障害の方々の困惑について皆さんは何を感じたでしょうか。
- 皆さんが自分なりに感じたことをお聞きしてみましょう。

体験Ⅳ 感覚の特異性

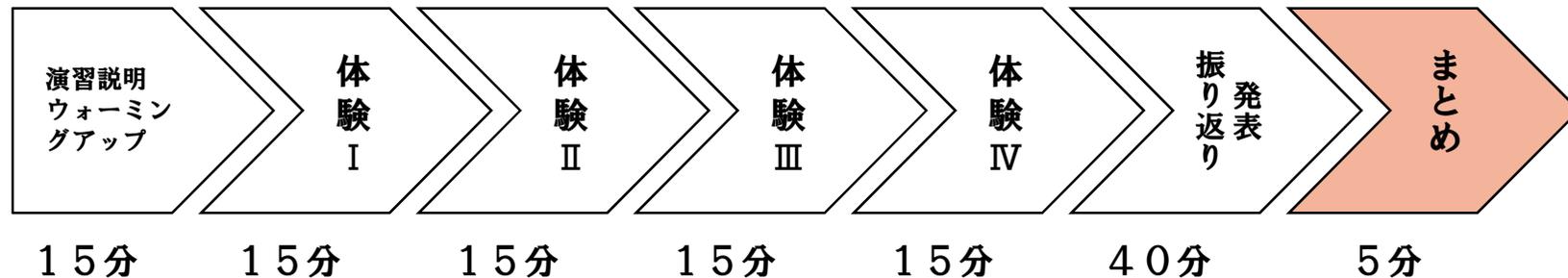
- ここで体験してほしいかったこと
《特性確認シートをご確認ください》
- 『**感覚の特性**』
【**感覚が過敏または鈍感**】
 - 聴覚・視覚の過敏や鈍麻がある
- 『**想像力の特性**』
【**物の一部に対する強い興味**】
 - 興味関心が狭くて強い
 - 細部が気になり違いに敏感

振り返り・発表



- 各グループで話し合いをします。
- 司会者・発表・記録者を決めます。
- この体験（強度行動障害の状態）から自分が感じた困難や、体験した以外のことで気付いた困難などを振り返り、発表してもらいます。

まとめ



- この体験を通じて、強度行動障害の状態にある方々がどのような困難を抱えているのか、私たち支援者がどんな困難を感じさせてしまっているかを改めて考えていただけたと思います。
- 受講者の方々が、それぞれに感じたことの違いはあると思います。しかし、強度行動障害の状態にある方々は、今日の体験よりももっと強い困難を感じておられる方々であるということを忘れず、日々の支援・対応に取り組んでいただきたいと思います。